

# ひだまり通信

第11号

令和5年3月



011-676-3131

## ひだまりエッセイ

「静明館食堂いつもの」は、あいのて入居者さん、つるかめ利用者さん、職員の食事を担っている部署です。

始まりは、円山静明館の住宅にあった普通のキッチンでした。その時から一貫して思うことは、食べる人に喜んでもらえることが作る私達の幸せということなのです。

施設の給食でも、家庭で食べているような食事を用意したい。お母さんのように、食べる一人ひとりの状態や好みを理解して、そこに沿って用意していくという心を大切にやってきました。

メニューを考えるとときや実際調理するときには常に食べる人を思い浮かべ、盛りつけるときにも単にお皿に盛り付ける



のではなく、その先の食べてくれる人まで思いを届ける。そんな気持ち大切に、これからも食べた人が幸せな気持ちになってくれることを願って用意していきたいと思っています。

静明館食堂いつもの

給食特殊料理専門調理師

若原 秀子

## 「つるかめで楽しくボランティア」

小規模多機能型居宅介護事業所つるかめでは、日々の活動にボランティアさんのお力を借りています。その縁を結んでくれている札幌市中央区社会福祉協議会の芳賀さんに一言いただきました。

2月のある日、小規模多機能型居宅介護事業所つるかめで、なごやかにマーじゃん卓を囲む男女4人の姿がありました。そのうちの男性一人は、「マーじゃん相手のボランティア」として週1回、つるかめに通っている方です。

札幌市中央区社会福祉協議会では、区内の施設・団体等からボランティア募集情報を提供して頂き、ボランティア活動を希望する方へ活動先を紹介しています。コロナ禍で、活動制限された時期もありましたが、つるかめさんには、これまでも趣味活動の相手やお茶出し等のボランティアを多数受け入れていただき感謝しています。

いつもあたたかく迎え入れてくださる利用者さんとスタッフの皆さん。ボランティアさんにとっても楽しい大切なひとときとなっています。これからもよろしく願っています。

札幌市中央区

社会福祉協議会

芳賀 浩子



発行：医療法人財団 老蘇会

静明館診療所 静明館訪問看護ステーションののほほ・いろいろサテライト サービス付き高齢者向け住宅あいのて 小規模多機能型居宅介護事業所つるかめ 老蘇訪問介護事業所 静明館居宅介護支援事業所はれのし